

# 理科中高一貫学習指導アウトライン

## 学習指導方針

- ・観察・実験による体験的学習を通して、自然への興味・関心を深め、創造的思考力を育成する。
- ・科学的な自然観を定性的なものから定量的なものに発展させ、自然現象をより正確に理解させ、問題解決能力を高める。
- ・6年を前期・中期・後期に分け、中高一貫教育の利点を活かした切れ目のない教育を行う。

## 指導計画

中1	中1の学習内容 + 中2の単元1「化学変化と原子・分子」 第1章 物質の成り立ち 第2章 化学どうしの化学変化
中2	中2の学習内容 + 中3の単元1「化学変化とイオン」 単元2「生命の連続性」 第1章 生物の成長と生殖 第2章 遺伝の規則性と遺伝子
中3	・中学3年の1学期で中学3年間の内容を終了する。 ・2学期より高校「物理基礎」の「力と運動」「エネルギー」分野を取り入れる。
高1	・物理基礎、化学基礎、生物基礎の3科目を学習する。 物理基礎終了後、化学基礎を学習する。並列して、生物基礎を学習する。
高2	○文系 ・生物 ・理科演習Ⅰ ○理系 ・化学 ・物理または生物 文系は化学基礎の演習に入り 理系は物理・生物・化学の教科書内容を進める。
高3	○文系 ・理科演習Ⅱ ・理科演習Ⅲ センター試験に向けての化学基礎・生物基礎演習 ○理系 ・化学演習 ・物理演習または生物演習 センター試験・個別試験に向けての演習

### 前期指導

- ・授業態度、予習・復習の習慣、課題の提出等、学習する姿勢を身につけさせる。
- ・実際の実験だけでなく、ICTを取り入れ、疑似体験をする事により、科学的現象に関心を高め、理解を深めさせる。
- ・観察・実験の取り組み手順を徹底させ、論理的レポートの作成方法を確立させる。
- ・実験結果や学習で得た成果を発展させ、プレゼンテーションができるように指導する。

### 中期指導

高校「基礎科目」教科の先取り(中学3年)

- ・中学3年から、高校内容の「物理基礎」科目に入る。中学第一分野を発展させ、法則性の導出を生徒に促す授業を行う。
- ・高校1年では、「物理・化学基礎」、「生物基礎」を平行して行い、高校2年において文系・理系ともに余裕をもって次のステージに進むことができる、切れ目のない教育を行う。
- ・「化学基礎」においては、身近な現象や身のまわりの物質から出発し、原理や法則を理解させ、化学的に考察する力を身につくよう授業を行う。
- ・「生物基礎」においては、日常生活や社会との関連を図りながら生物と生物現象への関心を高め、科学的な見方や考え方を育てるとともに、生物学に興味・関心を持たせる。

### 後期指導

- ・高校2年で検定教科書終了。
- ・文系は「化学基礎」の演習を高校2年から取り組む。
- ・高校3年4月から全ての授業で入試問題対策。
- ・高校3年前半は記述問題対策中心の演習授業。
- ・12月からセンター試験演習開始  
分野別実践演習 + 解法のテクニックを体得

余裕を持った指導により

徹底した個別弱点指導  
個別AO入試対策  
早期私大別入試対策  
早期国公立個別試験対策

が可能 →

高校3年すべてが  
受験対策授業

↓  
第一志望校に現役合格